令和８年９月２日

富士見市議会議長　勝　山　　祥　様

広報広聴委員会委員長　加賀　奈々恵
（議員派遣代表）

議員派遣報告書

富士見市議会会議規則第１６６条の規定による議員派遣が終了したので、下記のとおり報告します。

記

１　派遣期間　　令和８年７月２１日（火）　午後１時３０分から午後３時まで

２　派遣場所　　第１委員会室

３　派遣議員　　松本　剛　　小泉　陽　　堀　　航大　　加賀　奈々恵
熊谷　麗　　篠原　通裕　　川畑　勝弘

４　概　　要　　別紙のとおり

別紙
広報広聴委員会所管事務調査（オンライン行政視察）
静岡県静岡市　「市議会だよりについて」

＜静岡市の概要＞
面積 １，４１１．９３平方キロメートル
人口 ６６４，６６９人 （令和８年６月末日現在）
令和８年度一般会計当初予算 ４，０３５億円
財政力指数 ０．７８（令和７年度）

（１）調査事項の概要・経過・特徴等について
静岡市議会では、近年のスマートフォンやＳＮＳの普及など情報収集手段の変化を背景に、市議会だよりが市民に十分読まれていないことを課題として捉え、令和５年度から広報誌のリニューアルに取り組んだ。
リニューアルに当たっては、市民アンケートやＳＷＯＴ分析を実施し、「３０代・４０代の女性が思わず手に取りたくなる、今風のスマートなデザイン」をコンセプトとして設定した。誌名を「しずおか市議会＆ＹＯＵ」に改め、横書きへの統一、余白を生かしたレイアウト、写真・イラストの積極的な活用、色使いの工夫など、視覚的にも親しみやすい紙面へ刷新している。
また、静岡市議会では広報広聴委員会を設置せず、議会事務局が主体となって編集・制作を行っていることも大きな特徴であり、デザインや撮影は専門業者へ委託することで、質の高い紙面づくりを実現していた。

（２）具体的対応策・取組状況について
リニューアルに当たっては、市民アンケートにより読まれていない要因や市民ニーズを分析し、「平易な言葉」「写真やイラストを活用した分かりやすい紙面」への要望を反映した紙面づくりを進めていた。
編集は議会事務局が中心となり、紙面デザインや表紙構成は外部委託業者の専門的な知見を活用している。ページ数を７ページから５ページへ見直したことで文字量が整理され、読みやすさの向上にもつながっていた。
また、紙媒体を基本としながらも、音訳版や点字版を継続して発行するなど、多様な市民への情報提供にも配慮していた。リニューアル後もアンケートを実施し、市民の評価を把握しながら改善を重ねる仕組みが構築されていた。

（３）効果・課題・問題・反省点について
リニューアル後のアンケートでは、「読みやすくなった」「親しみやすくなった」「以前より内容まで読むようになった」といった肯定的な意見が多く寄せられ、紙面改善の効果が確認されていた。

一方で、紙媒体離れが進む中、市議会だよりをどのように多くの市民へ届けるかという課題は依然として残っており、紙媒体とデジタル媒体を効果的に組み合わせた情報発信が今後も求められるとのことであった。

また、編集作業は実質的に担当職員が中心となって担っており、議員の質問や答弁内容を分かりやすく要約しながら正確性を確保することへの負担や苦労についても、率直な説明があった。

（4）まとめ（指摘事項、本市における具体的な活用方策、提案等）

今回の視察を通じて最も参考になった点は、単にデザインを変更するのではなく、「誰に届けたいのか」というターゲットを明確に設定し、市民アンケートや分析結果を基に紙面全体を設計していたことである。

また、委員間の振り返りでは、「議会だよりは作ることが目的ではなく、市民に読まれ、議会への関心につながることが重要である」「紙面づくりには明確なコンセプトが必要である」「市民アンケートを継続的に実施し、市民の声を反映していく仕組みが大切である」との意見が共有された。

本市議会では議員自らが編集に携わるという特徴があることから、その強みを生かしつつ、今回学んだ横書きや余白を活用したレイアウト、写真・イラストの効果的な活用、ターゲットを意識した紙面づくりなどの考え方を積極的に取り入れることが重要である。

今後予定している議会だよりのリニューアルにおいては、市民の視点を第一に考え、「読みやすく、分かりやすく、手に取りたくなる議会だより」の実現に向けて、今回の視察で得た知見を編集作業へ反映していきたい。